

別紙 2

FAQ

Q 1. 吉川允二記念核融合エネルギー奨励賞（以下、賞）の決定時期を教えてください。

A 1. 授賞の決定時期は 2026 年 2～3 月頃の見込みです。

Q 2. 研究・活動等業績リストは、申請の対象となる活動に係るものだけ記載するのでしょうか。あるいは、申請者の業績は全て対象になるのでしょうか。また、様式 1-6 で選んだ主要な業績は、申請の対象となる活動に係るもののみが対象になるのでしょうか。それとも、申請者の全活動の中での主要な業績でいいのでしょうか。

A 2. 研究・活動等業績リストと主要な業績の要旨をどう書き込むかは、どう並べるかを含めて、応募者の知恵の出どころです。論文数ではなく、その研究や活動の成果の質の高さ、広がり（応用など）、深さ（学術基盤など）、社会への影響などが選考委員に適確に伝わるのが肝要です。主要な業績の要旨を一つに絞り込んだ記載でも構いませんし、複数の成果からなる総合的な実績を強調されても構いません。

Q 3. 申請書を作成するに当たり、申請者の全業績審査のような印象を受けました。特定の研究成果が対象ではないのでしょうか。

A 3. 賞は、「ITER や BA などに代表される未来の核融合エネルギーの実現に寄与しうる国内外の研究・技術開発活動、調査活動、社会連携・貢献活動等の中で、若手人材による優れた成果を顕彰する」ことを主な目的とし、「大学院生を含む国内外の若手の研究者・技術者・教育者・サイエンスコミュニケーター等が行った優れた成果」を対象としております。従って、全業績審査ではありません。

Q 4. 申請書の様式 1-1 に意見を聞ける先生の連絡先を書く欄があります。この欄は外国人（日本語が使えない）でも構わないのか、日本人で揃えた方がよいのか、どうなのでしょう。

A 4. 海外で活動中の成果をもとに応募される場合、申請者の活動分野を最も熟知された方が日本語を使えない外国人であることには必然性があると思います。一方、審査段階で当該対象分野の国内外での状況を確認する際、当該分野に近い関連分野の専門家に意見を伺う場合も想定されます。このため、少なくとも 1 名は申請者の状況を理解している（と思われる）日本人を、同意を得て、入れておくとうよろしいのではないかと思います。

Q 5. 連名での申し込みは可能でしょうか。

A 5. 申請は「原則個人」ですが、連名での応募が適切かつ不可分で特別な対応が必要と考えられる場合に限り受け付けます。

Q 6. 過去に本賞に申請したものの受賞できなかった活動でも、内容を見直した上であらためて申請することができますか。

A 6. 可能です。あらためて審査します。過去の申請からの進展や新しい展開がわかるような記述で申請してください。

2025 年 10 月 更新